



魚の観察・解剖にチャレンジ!

活動のねらい

- 釣ったり、捕ったりした魚を観察し、固有種・在来種・外来種に種類分けをすることで琵琶湖の魚の世界の様子を気づく。
- 外来魚を解剖・観察し、琵琶湖の魚の世界の変化について考える。

【時 期】 4月～11月

【場 所】 「うみのこ」の停泊港・船内

【時 間】 45分～60分

【準備物】 ●バケツや水槽（魚を入れるため）
●バット（魚を種類別に小分けするため）
●解剖セット（解剖ばさみ、解剖さら、ルーペ等）
●魚類図鑑（例：「滋賀の魚」）等
●新聞紙やビニール袋（解剖した魚を始末するため）

主な活動の流れ

事前学習

- 図鑑やインターネットなどで琵琶湖の魚を調べる。
- 魚の観察や解剖をするめあてをもつ。

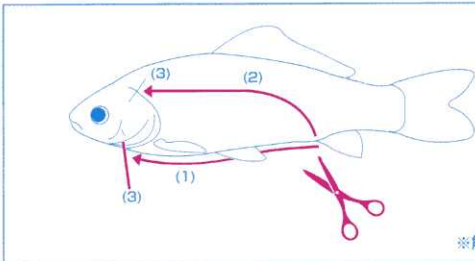
魚を観察したり、解剖したりして、
琵琶湖の魚の博士になろう!



フローティングスクール

- ①寄港地・停泊地の港や、その近辺で魚釣りや投網・漁業体験などをする。
- ②釣れたり、捕れたりした魚をバケツや水槽に入れる。
- ③魚を固有種・在来種・外来種の種類別に分け、図鑑などで名前や特徴を調べる。
- ④外来魚を解剖して、胃の中を調べる。

※解剖の仕方



- 1.おしりの穴から解剖ばさみの丸い先を入れ、おなかの真ん中(1)を切る。
- 2.おしりの穴から(2)の線に沿って切る。
- 3.最後にエラブタ(3)のところを切り取る。
かたいので、児童がおこなうときには、十分に注意する。

※解剖をした魚の後始末の仕方については、フローティングスクール指導主事と検討をする。

- ⑤ワークシートを使って、学習のまとめをする。



事後学習

- 琵琶湖の魚の世界の変化と、自然や人々の生活とのかかわりについて調べ、自分たちには何が
できるかを考える。